西岳中学校　学校便り　令和４年２月１４日号

きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、力強く生き抜く生徒の育成」

素直な心

ここ数回、きずなの記事を書く度に、松下幸之助さんの話を書いている気がします。

幸之助さんは、小学校しか卒業されていない方でありながら、昭和の日本経済を牽引した方です。それだけに単なる知識ではなく、ご自身の経験を基にした考え方をお持ちの方であったので、心に残るお話があるのだと思います。今日も、この幸之助さんの話です。

幸之助さんは、晩年に「松下政経塾」という私塾を創設されました。そこを卒業した方々の半数は政治家になられているそうで、まさに日本のリーダーを育てている塾と言えます。

そこで、幸之助さんが講義をされた中に最も多く出てきた言葉が「素直」だそうです。

素直とは、自然や人に対して謙虚であることです。幸之助さんの逸話に次のようなものがあります。

元松下電器産業の安川洋副社長がまだ新入社員だった頃、広報誌制作の件で当時の松下幸之助社長と話をしていたとき、こんなことを言われたそうだ。

「僕は小学校もまともに出ていない状態でこの商売に入ったので、日本語化された外国語が分からないことがある。だから最近日本語化された外国語を全部拾い出して、それはどういう意味かを書いて、僕に持ってきてくれ」

安川さんは社長のこの謙虚さにいたく感激した。「自分のようなペーペーになんてことを言うんだ」と。どのくらい感激したかというと、「僕はもう給料はタダでいいと思うほど感激した」そうだ。

松下幸之助という人が、いかに「人に対して謙虚」であったかがうかがえます。

「素直な心」とは、「すなお」という音の中にその意味が入っているという話を聞いたことがあります。

「すなお」の「す」は、人の話を聞いたとき、「すごいですね」「素晴らしいですね」「ステキですね」と**相手の話を称賛できる心**の「す」

「すなお」の「な」は、人の話を聞いたとき、「なるほど～」と**相手の話から学ぼうとする心**の「な」

そして「すなお」の「お」は、人の話を聞いたとき、「おもしろいですね」と、**相手の話をおもしろがれる心**の「お」

心の中に、**面と向かった人の話に対して称賛したり、学んだり、おもしろがれる「余裕のスペース」を持っている人**、それがすなわち、素直な人なのだろう。

（日本講演新聞　社説より引用）

私たちも、こんな素直な心を持ち続けたいですね。

HP ご覧いただいてますか？

立志式での、２年生の発表する姿、ごらんになりましたか？

学校での生徒の様子をどんどん掲載していきます。子どもの姿から元気をもらってください。